

岡崎 文雄 著

大分の石橋探訪



Vol.1 はじめに

総論・各種資料

初版：2007年3月30日発行

「大分の石橋探訪」掲載の六百十八橋

はじめに（総論）

- 掲載内容の説明
- 大分の石橋の現状
- 大分の石橋の紹介
 - 石造アーチ橋
 - 桁石橋
- 多数の石橋が存在する理由
- おわりに

資料編

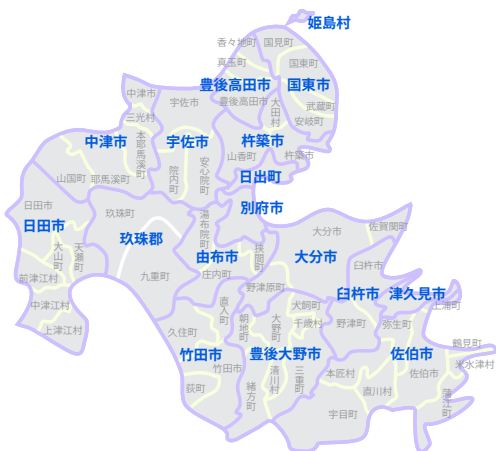
- 旧市町村別石橋数一覧表
- 大分の石橋総覧
- 文化財指定の石橋

「大分の石橋探訪」「オオイタデジタルブック」について／奥付け

「大分の石橋探訪」掲載の六百十八橋

新市郡	旧市町村名	アーチ橋	桁橋	撤去橋	総数
中津市	中津市	1	1	0	2
	三光村	7	0	5	12
	本耶馬溪町	28	2	10	40
	耶馬溪町	12	3	0	15
	山国町	4	0	0	4
宇佐市	宇佐市	20	2	6	28
	院内町	61	1	2	64
	安心院町	18	0	5	23
豊後高田市	豊後高田市	4	1	0	5
	真玉町	4	2	1	7
	香々地町	4	2	3	9
国東市	国見町	8	2	1	11
	国東町	4	5	0	9
	武蔵町	0	1	0	1
	安岐町	1	0	0	1

新市郡	旧市町村名	アーチ橋	桁橋	撤去橋	総数
杵築市	杵築市	2	1	2	5
	大田村	1	2	0	3
	山香町	13	0	8	21
速見郡	日出町	2	0	0	2
別府市	別府市	9	0	1	10
由布市	湯布院町	0	2	0	2
	庄内町	11	1	0	12
	挾間町	5	0	1	6
大分市	野津原町	2	1	0	3
	大分市	28	0	2	30
	佐賀関町	1	1	0	2
臼杵市	臼杵市	20	7	1	28
	野津町	15	4	0	19
津久見市	津久見市	1	0	0	1



新市郡	旧市町村名	アーチ橋	桁橋	撤去橋	総数
佐伯市	佐伯市	0	1	0	1
	弥生町	5	1	0	6
	本匠村	1	0	0	1
	直川村	2	0	0	2
	宇目町	4	0	0	4
	上浦町	0	0	0	0
	鶴見町	0	0	0	0
	米水津村	0	0	0	0
	蒲江町	0	0	0	0
	犬飼町	12	0	1	13
豊後大野市	千歳村	2	0	1	3
	大野町	15	0	3	18
	三重町	17	0	0	17
	清川町	9	0	0	9
	朝地町	6	2	1	9
	緒方町	52	1	2	55
	竹田市	36	5	6	47
竹田市	荻町	4	0	0	4
	久住町	16	0	0	16
	直入町	0	0	0	0
玖珠郡	九重町	6	1	0	7
	玖珠町	2	3	1	6
日田市	天瀬町	2	0	0	2
	日田市	10	6	2	18
	大山町	1	0	0	1
	前津江村	2	0	0	2
	中津江村	1	0	0	1
上津江村	0	1	0	1	
総計		491	62	65	618

我が家には時々面識の無い方から、大分の石橋の本はないか、入手の方法はないかという問い合わせの電話がある。多分図書館などで目にされた本に載っている我が家の電話番号を見て掛けてこられるものと思うが、残念ながらご期待にこたえられない。「大分の石橋を研究する会」も平成16年4月に解散して、会で発行したのもも残部が全く無い。

石橋の愛好者は県内だけでなく、県外にも多数居られるようである。隠れ愛好者になると更にひろがりがある。橋の専門家も居られるし、写真撮影で各地を廻られる方も居られるようである。このたび大分合同新聞社と別府大学で、大分の文化支援サイト「NAN-NAN」が開設されたが、この機会に現存する石橋の他に、既に撤去・流失した石橋も併せて紹介することになった。石橋の資料入手を希望される方々に、いくらかはお役に立つかも知れない。また、将来一つの記録として残るものになればとも考えている。

1：掲載内容の説明

私の石橋探訪は昭和61年からであるが、その当時すでに壊されている石橋もあった。これまでに私が撤去・流失を確認した石造アーチ橋は76基になる。

この後、撤去されるものや予期せぬ洪水などで流失するものはあっても、新たに架設されることはそうはないはずである。

本書に収録した石橋は、平成2年以降に撤去・流失したものも含めて総数は618基である。このうち石造アーチ橋は553基、桁石橋は代表的なものに限って64基とした。

何分数が多い。個々の石橋の説明も十分ではないがご了承いただきたい。

2：大分の石橋の現状

大分の石橋は地味である。長崎の眼鏡橋や熊本の通潤橋（つうじゅんきょう）のように華やかで

区分	現存	撤去 流出	計
石造アーチ橋	491	63	554
桁石橋	62	2	64
計	553	65	618



石造アーチ橋（オダニの車橋）



桁石橋（植野橋）

もないし観光客を呼び込むほど有名でもない。一つは、これまで世間に紹介されてこなかったこともあるし、一つは明治以降の新しい石橋が多いことにも起因するようである。

ところで、本稿では、石橋をアーチ橋と桁石橋に大別して記載した。桁石橋とした橋もその構造はいくつかの種類になる。石造アーチ橋の数は最近になって全国に1800基余りが現存することが分かってきたが、桁石橋になると何基あるのか実数の把握は極めて難しい。大分の石橋は全国最多であるが、それは石造アーチ橋に限っての話である。桁石橋を含めても多分同様であろう。総じて言えることは他県に比べて、水路橋が多いこと、多連橋（2連以上の橋）が多いこと、神社・寺院の参道橋や境内の橋が多いことがあげられるが、いずれにしても県全域で石の恩恵を受けていると言えるのである。

石造アーチ橋では文政7年（1824）架設の虹澗橋（こうかんきょう）が国指定の重要文化財、8連

アーチで橋長116.0mの耶馬溪橋など10基が県指定有形文化財、桁石橋では宇佐市のとくしん橋が県指定の有形文化財である。この他に市町村指定のもの、国の登録有形文化財に指定されたものも多い。

3：大分の石橋の紹介

江戸期の幹線道路は他国に通じた小倉道、日向道、肥後道、筑前・筑後道といえるが、街道と呼ばれるようになり、参勤交代の道路になって石橋が架設される。肥後細川藩の参勤交代道路には神馬橋・田町橋・境川橋（いずれも旧久住町）などの石造アーチ橋や桁石橋の橋本橋（旧野津原町）がある。また、岡藩では千載橋（旧大野町・撤去）が架設されている。さらに、年貢米搬送のために岡藩では岩戸橋（旧荻町）、臼杉藩では虹澗橋（旧野津町・旧三重町）が府内藩ではオダニの車橋（旧庄内町）などがある。

明治中期になって県の施策で当時の幹線道路の改築がはじめられ、永久橋として石造アーチ橋や



国指定重要文化財の虹澗橋



県指定有形文化財の耶馬溪橋

桁石橋が架設されている。明治28年に当時の佐賀県道(国道210号の前身)に架設した阿南橋(旧庄内町)は大分県が直轄で架設した石造アーチ橋の第一号である。当時の国道35号線に架設された赤松橋(日出町)や36号線(ともに現在の国道10号)の宇藤木橋などや佐賀県道に架設された石橋は現在でもその姿を見ることができるが、まさに近代化遺産である。

幹線道路の橋は県が架設しているが、その他の生活道路は市町村ではなく、地元が寄附金を集め県や郡から補助金を受けて架橋したものがほとんどである。中には山王橋(竹田市)のように頼母子講(たのもしこう)を開設して架橋資金を捻出したものもある。

大分には新しい石橋が多いと書いたが、明治中期に県が架設した石橋は例えば、割り石を乱積みにして壁石を積んだ在来工法と異なり、同じ厚さに成形した石をコンクリートを使用して布積みにした新しい工法の石橋に変化したからである。大

分の石橋が画一的に見えるのも、新しい工法によった石造アーチ橋が多いからである。

新しい工法の石橋は、県が中央から招いた技師の設計と指導によって実現したものであろうが、生活道路の石橋もこれに倣って新しいタイプの橋が次第に普及したものと考えている。勿論在来工法の石橋もあるわけで両工法の橋が混在するわけである。

4：石造アーチ橋

大分の石造アーチ橋の特徴と言えば①現存数が全国最多、②2連以上の多連橋が多いこと、③水路橋が多いこと、④神社・寺院の橋が多いこと、⑤橋名板を設けた橋がかなりあるなどである。さらに、径間長は全国一という轟橋(とどろはし・旧清川村)がある。

厚いアーチ石を積んだ橋が県南に多く見られるのは地域的な特徴であろう。

ところで、大分県では石造アーチ橋に在来型の工法によったものと明治中期以降に導入された工



径間長全国一の轟橋

法によったものがある。在来型とは虹潤橋に代表される江戸期からの工法である。外観上は壁石の積み方に違いがある。

ア 在来型では、壁面は野面石（のづらいし・自然石）や割石を乱積み（らん積み）に積み上げているから大小の石を組み合わせ合わせて積まれている。虹潤橋や萬年橋（大分市）・オダニの車橋（旧庄内町）のように、隣接する石を隙間無く（摺り合せて）随分手間をかけて積んだものがある。同じ乱積みでも、打上橋（旧院内町）や岩戸橋（旧荻町）では石と石の間に隙間はあるが如何にも職人の自信が見られるような積み方に仕上がったものがある。大正期以降の石橋でも旧院内町に多い乱積みの橋も趣がある。在来型の橋では空積み（からづみ）の壁石となるが、石の裏には、石を固定するために三和土（さんわど）が使用されたようである。

イ 明治中期に導入された新しい工法を私は明治型と呼んでいるが、その工法では、壁面を形

成する面の石の厚さを切り揃えて布積み（煉瓦積み）に積み上げている。前述した阿南橋からこの新しい工法が採用されている。直立した高い壁面を形成できたし、橋脚の上にアーチを載せることで多連橋の架設が容易になった。セメントの出現で接着剤として利用できたからである。一定の規格の石に揃えることで作業も効率化されたはずであり、壁石の積み上げという技術も進んだものと推測される。

5：桁石橋

県内の桁石橋の実数は中々把握が難しい。これまでに確認しているのは270基ほどであるが構造種類も多い。種類別に大まかに分けると次のようになる。

1：一枚石の橋

ア 大きな自然石をそのまま利用した橋では乙見橋（臼杵市）がある。兩岸に石積み橋台を築き、その上に大きな平石を載せている。県内最



在来型工法の萬年橋



明治型工法の阿南橋



一枚石の桁石橋、乙見橋

大である。大きな平石を橋にした巨石の橋（おおいしの橋・旧国東町）は飯塚城の濠に架かったものと言われている。

- イ 自然石の上面を湾曲加工して橋面にしているのが宝陀寺の渡月橋（旧大田村）である。

2 桁石を並べて架けた橋

- ア 細川藩の参勤交代道路に架かる橋本橋（旧野津原町）は、兩岸に台形の橋台を築きその上に大きな桁石4本を並べて載せている。

- イ 平田井路橋（旧耶馬溪町）は桁石の横の鏡石に安政4年の文字が刻んである古い水路橋である。

- ウ 植野橋（中津市）は御影石の桁石15本の上に板石を並べた明治34年の架設である。当時の国道35号線（現国道10号）に残されている桁石橋はこの橋だけである。

- エ 神迎橋（旧日本耶馬溪町）や大坪橋（旧朝地町）は橋脚を築いて桁石を並べた沈み橋である。県内には多数の沈み橋があるが、桁石を架けた沈み橋は6基ほどである。

- オ 桁石数本を並べ両側に高欄を設けた石橋は神社・寺院の参道橋など多数がある。

3 合掌型・拝み合わせの石橋

- ア 草深野の石橋（旧緒方町）は兩岸の石積みの上に、桁石30本を合掌型に築いている。知尾谷橋（旧庄内町）も同じ構造で桁石は7本である。

- イ 霊仙寺無明橋（旧香々地町）と妙経寺庭園橋（杵築市）は2本の桁石を拝み合わせに組んでいる。

4 方杖橋

- ア 宇佐市のとくしん橋は県指定の有形文化財である。間隔を置いて並べた三本の桁石を兩岸から斜めに突き出した方杖石で支え、桁石の上には板石を並べて橋面を造り更にその上に土を置いている。

- イ ひよどり越橋（旧香々地町）は桁石を並べた橋であるが、桁石の両端は兩岸から斜めに置いた方杖石の上に重ねてある。

5 刎ね橋（ほねほし）

- ア 地藏尊雀橋（旧国見町）や西畑橋（旧野津町）



桁石を並べて架けた橋本橋



合掌型に桁石を築いた草深野の石橋



斜めに突き出した方杖石で支えたとくしん橋

は両岸から斜めに突き出した石の上に桁石2本を置いた橋で以前は同じタイプの石橋がかなりあったようである。

6 迫り出し式の橋

ア 松株橋（旧弥生町）や箕ヶ谷橋（旧野津町）など旧国道36号線改築にあたって架設した石橋は両岸の橋台の上に桁石を並べているが、橋台の上は三段に石を迫り出して積んでいる。片ヶ瀬の石橋（竹田市）も同じ石組みの橋である。

7 桁石・板石の組み合わせ

ア 久地橋（旧院内町）は二本の桁石の上に板石を並べている。桁石は県内最大。

イ 桁石と板石の組み合わせの橋は多いが、桁石の上面を円弧状に加工したものもかなりある。神社・寺院の参道橋や境内の池に架かる石橋に多い。

8 その他

6 多数の石橋が存在する理由

大分県は山間部の多い地形である。山越えの道

路を行き来し、深い谷川を渡らなければならなかった。農業用の水を導くためにトンネルを穿ち谷川に掛け樋を架けなければならなかった。人々は昔から生活上、苦勞を強いられていたのである。増水の際も安心して渡ることが出来、干天の時も水を導くことが出来る橋を架けることは夢であり最大の悲願だったはずである。

石造アーチ橋の架橋の技術は長崎から熊本を経て大分に伝わったとされている。江戸期の橋では肥後石工が架けた小月橋（日田市）と備前の石工が架けた岩戸橋（旧荻町）があるが通説を裏付けるようなものや断定できるような資料はまだ見つかっていない。

多くの石橋が架けられた第一の理由は、架橋地点の近くで橋材に適した凝灰岩の岩山から石を切り出すことができたからである。豊富な石材があったからである。当然、石を採掘する職人やこれを加工し或いは積み上げる石工職人が多数いたことで石橋が架設されたわけである。大分県では、



両岸から斜めに突き出した石の上に桁石2本を置いた勿ね橋、地藏尊雀橋



迫り出し式の橋、松株橋



二本の桁石の上に板石を並べた久地橋

熊本のように石橋を手がける石工の大集団は認められないが、近隣の石工を纏めた柴北の石工棟梁後藤郷兵衛や虹潤橋を架けた白杵の折平がいる。また、大正期に活躍した旧院内町の松田新之助や白杵の川野茂太郎がいる。師匠から弟子に石橋架設の技術は引き継がれている。多数の石工の存在が第二の理由である。

コンクリート橋が架設されるようになった大正末期以降昭和 20 年代まで、大分県では石造アーチ橋が架けられている。幹線道路の橋は県が架設しているが、枝線の生活道路の橋は地元負担で架けることが多く、このためコンクリート橋に比べて割安で架けられる石造アーチ橋が採用されたものと推測される。

最盛期には恐らく 600 基を超える石造アーチ橋が存在したものであろう。車社会になって交通事情が変化しても、過疎地を多く抱える土地柄から橋の架け替えの必要が無かったことも石造アーチ橋の延命につながっているわけである。

おわりに

県内には多数の石橋がある。石橋のある風景や地元の石橋に愛着を持っている方も多い

はずである。しかし、実態は藪の中に放置された橋もあるし、容易に近寄れないような場所に架設されたものもある。写真に収めるのも難しい石橋も多い。石橋は自然のままの姿に保つのが良いという考えもあるかも知れない。これらの石橋を、常時好ましい状態で維持管理するのは難しいし行政の手も及ばない。

特に、県外からの来訪者に期待を裏切るような橋の姿を披露したくない。しかし、現実には駐車する場所も休憩する場所もそう整備されている訳ではない。

石橋の愛好者としては、自然の中に溶け込んだ石橋が、青い水の流れとともに何時までも生き続けてほしいと、願うばかりである。

(平成 19 年 2 月 28 日記)



肥後石工が架けた小月橋



備前の石工が架けた岩戸橋

Table with columns: 旧市町村名, 種別, 石橋名称 (数字は本稿「大分の石橋探訪」で使っている石橋の通し番号), and multiple columns for bridge numbers and names. The table lists bridges across various municipalities including 中津市, 三光村, 本耶馬溪町, 耶馬溪町, 山国町, 宇佐市, 院内町, 安心院町, 豊後高田町, 真玉町, 香々地町, 国見町, 国東町, 武蔵町, 安岐町, 杵築市, 大田村, 山香町, 日出町, 別府市, 湯布院町, 庄内町, 狭間町, 野津原町, 大分市, 佐賀関町, 白杵市, 野津町, 津久見市, 佐伯市, 弥生町, 本匠村, 直川村, 宇目町, 大脚町, 千歳村, 大野町, 三重町, 清川町, 朝地町, 緒方町, 竹田市, 荻町, 久住町, 九重町, 玖珠町, 天瀬町, 日田市, 大山町, 前津江村, 中津江村.

国指定重要文化財			
番号	橋名	所在地	架設年
425	虹潤橋(こうかんきょう)	豊後大野市三重町菅生柳井瀬 / 臼杵市野津町西畑	文政7年(1824)6月

県指定有形文化財			
番号	橋名	所在地	架設年
023	耶馬溪橋(やばけいばし)	中津市本耶馬溪町曾木	大正12年(1923)
025	羅漢寺橋(らかんじばし)	中津市本耶馬溪町曾木	大正9年(1920)10月
095	とくしん橋(とくしんばし)	宇佐市山本社ケ谷	延享2年(1745)
103	鳥居橋(とりいばし)	宇佐市院内町香下	大正5年(1916)7月
118	御杵橋(みくつばし)	宇佐市院内町御杵	大正14年(1925)8月
189	若宮八幡社参道橋(わかみややはちまんしゃ・さんどうきょう)	豊後高田市御玉	万延元年(1860)11月
203	潮観橋(しおみばし)	豊後高田市香々地別宮八幡社	安政5年(1858)9月
275	オダニの車橋(おだにのくるまばし)	由布市庄内町櫟木	嘉永元年(1848)9月
299	万年橋(まんねんばし)	大分市大字寒田	文久2年(1862)
562	岩戸橋(いわどばし)	竹田市荻町馬場	嘉永2年(1849)10月
597	筏場目鏡橋(いかだばめがねばし)	日田市高井町	文化3年(1806)

市指定有形文化財			
番号	橋名	所在地	架設年
11	泰源寺橋(たいげんじばし)	中津市三光西秣	大正中頃(1917~1921)と推定
55	馬溪橋(ばけいばし)	中津市耶馬溪町大字平田	大正12年(1923)10月
96	旧桂懸井路社ケ谷水路橋(きゅうかつらがけいろ・やしらがたにすいろきょう)	宇佐市山本社ケ谷	明治39年(1906)5月
106	打上橋(うちあがりばし)	宇佐市院内町高並	文久3年(1863)5月
111	御仮屋橋(おかりやばし)	宇佐市院内町小稲	大正初期(1912~1917)と推定
121	荒瀬橋(あらせばし)	宇佐市院内町副	大正2年(1913)
123	久地橋(きゅうじばし)	宇佐市院内町原口	明治初期(1868~1882)と推定
130	富士見橋(ふじみばし)	宇佐市院内町斎藤	大正14年(1925)4月
134	宮の瀬橋(みやのせばし)	宇佐市院内町斎藤	明治40年(1907)
143	西光寺橋(さいこうじばし)	宇佐市院内町月俣	江戸末期(1850~1868)と推定
148	飯塚橋(いづかばし)	宇佐市院内町下余	明治20年代(1887~1896)と推定
153	分寺橋(ぶんじばし)	宇佐市院内町温見	昭和20年(1945)3月
165	一の橋(いちのはし)	宇佐市院内町北山	明治26年(1893)4月
183	今井橋(いまいばし)	宇佐市安心院町今井	大正12年(1923)9月
191	朝平橋(あさひらばし)	豊後高田市梅ノ木	明治38年(1905)
206	戎子橋(えびすばし)	豊後高田市夷	明治18年(1885)3月
219	沙川橋(さがわばし)	国東市国見町岐部	明治18年(1885)6月
221	妙力橋(みょうりきばし)	国東市国東町岩戸寺	明治20年(1887)
227	小川橋(おがわばし)	国東市国東町横手	明治41年(1908)1月
228	池下橋(いけしたばし)	国東市国東町横手	明治38年(1905)
229	阿弥陀堂前橋(あみだどうまえばし)	国東市国東町上治郎丸	江戸末期(1850~1868)と推定
235	萬歳橋(まんざいばし)	杵築市溝井	明治7年(1874)10月
326	西谷橋(にしにばし)	大分市大平	文政7年(1824)3月
328	高倉橋(たかくらばし)	臼杵市大野	明治初期(1868~1882)と推定
329	通の車橋(かよいのくるまばし)	臼杵市嶽谷	文化10年(1813)
352	音波橋(おとわばし)	臼杵市高山	明治45年(1912)
358	鳴清水橋(なるそうずばし)	臼杵市野津町福良木	明治4年(1871)12月
359	間戸川車橋(まどがわくるまばし)	臼杵市野津町八里合	嘉永3年(1850)8月
362	戸上橋(とのおうえばし)	臼杵市野津町西寒田	明治43年(1910)3月
369	仮屋橋(かりやばし)	臼杵市野津町野津市	大正6年(1917)5月
374	箕ヶ谷橋(みがたにばし)	臼杵市野津町垣河内	明治30年(1897)頃と推定
378	宇藤木橋(うとうぎばし)	佐伯市弥生町尺間	明治30年(1897)2月
391	千世橋(ちよばし)	豊後大野市犬飼町下津尾	明治12年(1879)10月
392	神宿橋(かんにゅくばし)	豊後大野市犬飼町柴北	大正10年(1921)5月
423	古殿橋(ふるどのばし)	豊後大野市大野町北園	文化14年(1817)9月
441	天然橋(てんねんばし)	豊後大野市清川町宇田枝	大正10年(1921)3月
442	岩上橋(いわがみばし)	豊後大野市清川町宇田枝	大正8年(1919)
444	深谷橋(ふかたにばし)	豊後大野市清川町左右知	江戸末期~明治初期(1850~1882)と推定
452	市万田橋(いちまんだばし)	豊後大野市朝地町市万田	大正14年(1925)4月
453	池田橋(いけだばし)	豊後大野市朝地町池田	大正12年(1923)
454	池在橋(いけざいばし)	豊後大野市朝地町池田	大正13年(1924)12月
456	中渡橋(なかわたりばし)	豊後大野市朝地町下野	平成12年(2000)5月
457	朝地橋(あさじばし)	豊後大野市朝地町朝地	大正12年(1923)11月
458	妙見橋(みょうけんばし)	豊後大野市朝地町朝地	明治37年(1904)1月
538	若宮井路鏡水路橋(わかみやいろ・かがみすいろきょう)	竹田市会々	明治42年(1909)4月
551	山王橋(さんのうばし)	竹田市飛田川	明治45年(1912)3月
561	大正橋(たいしょうばし)	竹田市荻町政所	大正元年(1912)9月
573	神馬橋(かんばんばし)	竹田市久住町久住	文政5~7年(1822~1824)と推定
576	丸山橋(まるやまばし)	竹田市久住町白丹	大正8年(1919)頃と推定
617	間地橋(まじばし)	日田市中津江村栃野	大正11年(1922)11月
618	老松天満社参道橋(おいまつてんまんしゃ・さんどうきょう)	日田市上津江町浦	不明

町指定有形文化財			
番号	橋名	所在地	架設年
584	妙見橋(みょうけんばし)	玖珠郡九重町右田	明治31年(1898)
585	右田井路橋(みぎたいろきょう)	玖珠郡九重町右田	明治40年(1907)頃と推定
586	深瀬橋(ふかせばし)	玖珠郡九重町野上	明治30年(1897)
587	藤ノ尾橋(ふじのおぼし)	玖珠郡九重町野上	明治29年(1896)

町指定史跡			
番号	橋名	所在地	架設年
262	赤松橋(あかまつばし)	北海郡日日出町藤原赤松	明治30年(1897)9月

旧町当時に指定されていた有形文化財			
番号	橋名	所在地	架設年
276	阿南橋(あなんばし)	由布市庄内町櫟木	明治28年(1895)4月
288	金槌橋(きんつじばし)	由布市挾間町鬼崎	江戸後期(1780~1868)と推定

国登録有形文化財の石橋			
番号	橋名	所在地	架設年
104	櫛野橋(くしのばし)	宇佐市院内町櫛野	大正12年(1923)9月
122	水雲橋(すのりばし)	宇佐市院内町原口	昭和2年(1927)
132	鷹岩橋(たかいわばし)	宇佐市院内町斎藤	昭和3年(1928)
133	中島橋(なかしまばし)	宇佐市院内町斎藤	大正10年(1921)
151	両合川橋(りょうあいかわばし)	宇佐市院内町滝貞	大正14年(1925)10月
157	念佛橋(ねんぶつばし)	宇佐市院内町温見	昭和3年(1928)12月
530	若宮井路・笹無田水路橋(わかみやいろ・ささむたすいろきょう)	竹田市挾間笹無田	大正6年(1917)4月

■大分の石橋探訪 （おおいたのいしばしたんぼう）

石橋の魅力に取り付かれた一人の石橋研究者、元大分の石橋を研究する会会長の岡崎文雄氏が昭和61年から大分県に散在する大小の石橋を探し求めて20年、流失・撤去を含めた618橋の所在を確認、その歴史と諸元を記録し約1000枚の写真とともに電子ブックにまとめた。

■筆者・・・・岡崎文雄（おかざきふみお）氏

大正13年 大分郡挾間町生まれ（現由布市）
 昭和57年 宮崎県を退職
 昭和62年 大分の石橋を研究する会・日本の石橋を守る会会員
 平成5年 「魅せられて・里の石橋たち」共著
 平成6年 「大分の石橋記念碑」自費出版
 平成8年 「伝えたい・ふるさとの石橋」共著
 平成13年 「宮崎県の石造アーチ橋」自費出版
 平成14年 大分の石橋を研究する会 会長

（現住所：大分市緑ヶ丘4-12-10）

「大分の石橋探訪」Vol.1：はじめに © 岡崎文雄

2007年3月30日初版発行

筆者 岡崎文雄

編集 大分合同新聞社

制作 別府大学メディア教育研究センター

発行 NAN-NAN事務局

〒870-8605 大分市府内町3-9-15 大分合同新聞社総合企画室内

■オオイタデジタルブックとは

オオイタデジタルブックは、大分合同新聞社と学校法人別府大学が、大分の文化振興の一助となることを願って立ち上げたインターネット活用プロジェクト「NAN-NAN（なんなん）」の一環です。NAN-NANでは、大分の文化と歴史を伝承していくうえで重要な、さまざまな文書や資料をデジタル化して公開します。そして、読者からの指摘・追加情報を受けながら逐次、改訂して充実発展を図っていきたく願っています。情報があれば、ぜひNAN-NAN事務局にお寄せください。

NAN-NANでは、この「大分の石橋探訪」以外にもデジタルブック等をホームページで公開しています。インターネットに接続のうえ下のボタンをクリックすると、ホームページが立ち上がります。

まずは、クリック！！！！